

縣陵東京ネットはブロードバンド夜明け前の2001年にスタート。以来、総会や愛のリレーの情報発信を中心に、時系列で最新情報がすぐわかる、更新作業が迅速にできるフォーマット、というスタイルでまとめてきました。本年（2021）初頭、コンピュータやウェブ制作ソフトの更新と松本同窓会のサーバへのサイト移転が重なり、少なからず混乱いたしました。松本同窓会のサイト運営をされている丸山さん（48回卒）にアドバイスをいただきながら作業をすすめ、以前の状態に復帰させることができました。

コロナのもと、オンラインでのコミュニケーションの重要性がさらに高まり、ウェブサイトの役割も変化します。単なる情報発信のツールから、オンライン決済、議決案件への賛否投票など実務面の機能充実も求められるでしょう。活動が鈍り、ウェブサイトの更新作業が減っているいまは、長い年月で複雑化してしまったサイト全体を見直すチャンスです。

ネットの基礎的な知識もなく、見様見真似で取材、原稿書きとデザイン、アップ作業を担当してきましたが、70歳目の私に、今後新しいものを生み出す感性が残っているとはとうてい思えません。縣陵東京ネット創設20年を節目に、豊富な知識をお持ちのプロフェッショナルに永続的な運営をお願いするのが良いと思います。

新しい酒は新しい革袋に。新任の方の考える通りにやってもらうのが最良ですが、今後の課題として思いつくものをいくつかあげます。

紙の「会報あがた」との関係

ウェブサイトの強化は、すばやい情報発信、同窓会運営の省力化、ローコスト化、より広い情報公開につながります。編集・印刷・発送に時間と費用がかかる紙の会報と電子版のバランスをどうするか。会報とセットになっているはがきでの総会参加申込、振替用紙による送金などをいつまで維持するかをよく考え、はやめに方向性を出す必要があります。

簡単決済をめざす

ネットバンキングやカード決済などで、イベントなどの参加申し込み～会費支払いまでをウェブサイト上で短時間ですませられないかを研究する必要があります。郵便局や、銀行まででかけて振り込み、などはコロナがなくても敬遠されます。オンライン決済なら寄付などの呼びかけもしやすいでしょう。人的な負担も軽減されます。一方でセキュリティの確保、決済サービスの手数料などが引き合うのか、といった課題もあります。

読んでもらうコンテンツを作る

イベント情報、レポートだけでなく、充実した趣味、研究ライフをおくっている会員に連載をお願いする、写真家愛好家や絵画彫刻などのウェブギャラリー、自慢の料理紹介など文化教養面のコンテンツを加えるのもよいのでは。

サイト一新についてお手伝いできることがあれば取り組んでゆくつもりです。
ありがとうございました。